

水源禅師法話集 11

(2012年9月14日 忍野合宿)

2014年9月19日

一乗会



目次

水源禅師法話	1
走馬燈.....	1
ボロボドゥール.....	1
マヤの数字.....	3
仏教と数学.....	3
北伝仏教と南伝仏教.....	4
浄土は存在する.....	5
仏舎利を巡る.....	6
文献より現場で.....	7
経済のサイクル.....	8
過去世.....	10
私はレポーター.....	12
質疑応答	14
時代が変わればテクニックも変わる.....	14
自分で検証できる.....	16
カナダの浦島太郎.....	18
日夜、阿弥陀.....	19
いたずら坊主.....	20
過去世を観ると壁が倒れる.....	21
火の神.....	22
十無益.....	25
ゆったり.....	25

水源禪師法話

走馬燈

前回では7講座にわたってお話させていただきました。般若心経のことをいろいろ説明させていただきました。

それで北京のラマ寺に訪ねたときに、般若心経の走馬燈を見つけて買って来たのですよ。これはね、ロウソクを付けたらクルクル回るので。これは般若心経が書かれてあるのです。電気消したら綺麗にクルクルクルクル回って。般若心経がお部屋いっぱい照らします。

ラマ寺通りでは仏具を買ったり売ったりする店がたくさん並んでいるのですよ。チベット仏教だけではなく、色々な南方の仏具とか売っているところで。今あちらは現代化してね、ソーラーパネルでできていて、クルクル回るのが流行っていて、こういうふうにロウソクでやるのはたった一件見つけただけで、じっと他の走馬燈を見ていたらね、そこの主人が私の顔を見てこれを出すのですよ。本当は色が付いて、チベット風な走馬燈を買いたかったのだけれど、でもこれを出すわけで。「お、お～、般若心経だ」と思って、これ買いました。前回、般若心経講義をしたから、どうしても因縁で買わざるを得なかったのでしょうか。因縁って面白いでしょ？（笑）これ、電気を消したらとても綺麗ですよ。

ボロブドゥール

今回の旅でもタイのお坊さんからEメールもらいましてね。「今年の12月21日大晦日、大変なことになるのじゃないか」という噂でもう…そういう情報が飛び交っているらしいです。丁度、私はそのときインドネシアのボロブドゥールという遺跡に行くことになっていました。紀元1000年とか1200年ぐらいのところですね。その頃に中国や世界的に仏教の法難が起こったみたいですね。ただ、「本当のヒンズー教は、インドネシアのバリ島にある」と言っていますね。インドでも今は消え去ってしまったと。

それで、なぜか私がボロブドゥールに去年、行ったか分からないけれども、何かしら不思議な縁でそこに行って、初めて分かったのだけれども、そこは密教の世界最高峰のお寺だったのですね。先ほどお渡ししたカイラス山の旅からずーっと始まって、行き着いたところが去年はこのボロブドゥールで、何とそこはちょうどペルーのティティカカ湖とインドネシアのこの場所が、この地球にとって、とても大切なチャクラの場所で、地球のエナジーポイントだったのです。

そのとき、北方インディアンの人が「禅を教えてくれ」と訪ねてきたらしい。カナダからEメールもらって。私はいないし教えられなかったけれども。北方のそちらの方から火の行の方法を教わっていました。不思議な火の力を出す行法をもらって。

その因縁かどうか、それでなんと素晴らしいことに、弘法大師様が中国から持ってきた中

国の方で消え去った護摩焚きの行法を今度、日本で戴き、その後すぐに韓国へ渡って、今度はミャンマーを訪ねた後、12月21日にボロブドゥールで護摩焚きをやる因縁を貰うことになりました。そういう行法を行えば、災難があっても大災難が中難になり、中災難が小難になる、と思いました。何しか今の世は前代未聞の経済大混乱が起こっていて、とてもじゃないけど、借金につぐ借金を尽くして空手形を出しているものだから、それを「ご破算に願ひまして」の方向を計画しているみたいですね。そういうことと絡めて2012年12月21日の地球大危機が言われているみたいです。



ボロブドゥール (2012年12月21日)

マヤの数字

ということは、これはちょうどカルマですね。因縁。冬とか春とか夏とか、そのサイクルがあるわけなのです。それがちょうどまた、この経済的なサイクルと政治的なサイクルと、それから戦争のサイクルがピターッと一つの車のようにクルクルクルクル回っているわけなのです。ちょうど走馬燈のようなものです。

それで、マヤカレンダーは 52 年サイクルなのですね。数字はちょうど 13 日が一週間で、それからそれとまた 20 という数字を使う。20 は 10 の手の指と足の指で 20 ですね。マヤの不思議なことは、「ゼロ」を知っていることなのですね。ゼロ「0」。ゼロを知っている地球上での文明はインド。それで、そのマヤ・カレンダーは絶対に狂わないのです。600 年間に 1 秒。なぜかといったら、私たちのカレンダーは 4 年に 1 回、1 日狂う閏年というのがあるでしょう。マヤカレンダーは 600 年に 1 秒だけしか狂わない超精巧な日付を使っています。このサイクルが 5125 年のサイクルで、今ちょうど変わり目が 12 月 21 日なのです。それで、マヤカレンダーのサイクルを見たら、大雑把に言えば、64 million year だか 6400 万年のでっかいカルパ（劫—計り知れない時間の単位）みたいなカレンダーを持っているわけなのです。だから、私たちの過去の文明を調べていても、とても不思議なことばかり。

つい最近まで、天文学者が「他の天体に惑星がある」と言ったら、すぐ首になるわけなのです。学会から外されて。ところが、なんと 20 年前と今と比べたら、今の学説ではもう 100 billion だから、「1000 億の惑星がこの銀河の中にある」と言い始めたわけです。

こういうふうに、ガリレオ・ガリレイが死刑になるような時代にいるわけなのです。結局、私たちは最先端の話ばかり聞いても、専門家がここまでおかしくなってしまうわけですよ。そしたら動揺するでしょ？

私が 20 年前にカナダで聞いた MIT の宇宙生命体の学者の数式を見たらですね、だらだらだらだらと書き並べて…もう天才的な数学者だから。それで「宇宙生命体はゼロ、地球しかない」と言っておりました。（ハア〜）。メディアは全く無責任で、その後、訂正は全くしていません。

でも、私は「とても信じられない」と、そう思ったら学説が変わって、今度はなんと「たくさん生命体が宇宙に満ちあふれている」ということになったわけです。というふうにね、偉い学者さんだから、そのまま信じていたら、もう右往左往して大変なことになります。だから、お釈迦様は「私のことを信じたらダメです」と。「私の言っていることが正しいかどうか検証してください」と言っておりました。

仏教と数学

お釈迦様が 2500 年前になんとうすごいことをしたかと言えば、数学的にきちっと検証しているわけなのです。稲妻があるでしょ、パパーッと閃く。それが『金剛般若経』の最後のところに出てきます。「稲妻を見てくれ」と、一節の中にあります。それは大体、稲妻といったら 5 キロから 10 キロ。パーンと光るのですけども、大体 10 キロくらいとして、パーッ

と光った場合には、大体その瞬間が1秒の3分の1。それで、そのタイミングを見て、自分の心の波動がどれくらいあるか分かる。それが10兆の波動であると。

それが結局、『アビダンマッタサンガハ』のナーマ・ルーパ（心と体）の基本になっているわけなのです。それで、これを現代風にスリランカで、現代語の英語で書かれた書物ですね。これはなんと『アビダンマッタサンガハ』というのは、一般の方や分からない人のために書かれた経典が日本語で書かれているけれども、これはその奥義の大体七つの経典から取った、とっても重要なことが書かれています。

ここで最初に出てくるのはやっぱり「数学的なことをまず勉強してくれ」と、お釈迦様は言っているわけ。なぜかといったら、私たちは $1+1=2$ 、 $1-1=0$ 、これがこの世界。それで、お釈迦様はそのときにね、「 ∞ （無限大） $-\infty$ （無限大） $=\infty$ （無限大）である」と。それから「 ∞ （無限大） $+\infty$ （無限大） $=\infty$ （無限大）」。

これが本当に今、全世界の数学者が納得する数式です。なんと私の教えている数学者が2500年経って、やっと論文を書いたのがこの論文で、私の指南している数学教授が「2年前にこの無限大の研究をやめようと思う」と言ったときに、「してください」とお願いしました。「それはとっても重要なことだ」と。

結局、お釈迦様のこの仏教の奥義がピタゴラスと合っているわけなのです。この論文を2カ月前に発表したら、すぐにペンシルベニアの数学科に呼ばれて教授になっていきました。これが無限大の（論文）。2500年経って、非常にお釈迦様に近い論文なのです。私たちの世界は、お釈迦様の説法で私が計算したら「ナノ」の世界、「ナノ」の世界の10ナノメートルの時空しかないわけなのです。

お釈迦様は、最初に言われたこの大経典の中で、数字をパーツと出してくるわけです。

北伝仏教と南伝仏教

結局、北伝仏教には、南伝のこのパーリ語のこういう奥義が、あまり詳しく伝わってこなかったのか、埋もれてしまったのかは分かりませんが、達磨大師、達磨多羅禪の奥義、これを見たら大体、最初の方からアナパナの修行法を書いています。大体、不浄観を勧めていました。大外「4エレメント」、日本語で言えば「地水火風」「四界分別」、ここらへんになって初めてヴィパッサナー（観）の最初の教科になってきます。それで書いている内容を見たら、とてもじゃないけど、これは通過できないようになっている。内容は間違っていないけれども、菩提達磨の正法をよく理解できないで書かれてあるみたいです。なぜかといったら、私がパオで直接、パオ・セヤドーから「これを見てくれ」と。この本は直接渡された本なのです。もう最初の方から、先にニミッタ（丹光、禪相）をやって、これをどんどん通過して行って、32 parts—三十二身分ですね。

三十二身分は、ここらへんに入ってくるわけですね。ここらへんから入ってきて。だから結局、その当時、今から1500年前、言語も違う、そういうところに入ってきて、中国で受け止めたことが、この文献になったけど。これでも素晴らしいことです。分からないなりにながら三十二身分が三十六身分になってみたり、お釈迦様の教えた40瞑想法が49瞑想になってみたり。それで、ニミッタのことがとうとう出てくるのが、最後の辺りなのですよね、最後

の方。ところが、本当のお釈迦様の教えは、最初からもうニミッタやらせるわけなのですよ。できない場合は、不浄観か三十二身分をやらせるわけですよ。こちらの『達磨多羅禅経』では逆の方になっています。最初の方からずーっとやってきて時間をかけて、その後、ニミッタが出るかどうかという教科になっています。

それで、私がパオで修行した後、一番悩んだことは「一体、皆さんにどうしてここまで教えることができるか」と。私はできない、もうやめようと思ったわけなのですが、自分だけ分かって、この世を去っていいものか。

その葛藤がすごくて「皆さんにいかにして、そこに行かなくても、そのさわりか、その境地に入れるのではないか」ということを探し回ったわけなのです。それで出会ったのが『サティパッターナ』という経典でした。「これ以外の行法で涅槃に達することはない」という大変すごい教典ということなのです。

これがマハシの基本にもなっていますし、全テーラワーダ（南伝）の奥義の中の奥義になっています。これによって、私が最後の行をしたカーヤヌパサナー（身随観、マハシの行法）も確かである。ヴェーダヌパサナー（受随観、ゴエンカの行法）も確かである。

この『サティパッターナ』の経典をプロフェッサー クスマ比丘尼とって、スリランカで最初の大学の先生が比丘尼になった方です。その人から渡された経典で、この方が一生をかけて研究した、その中の最も大切なことを頂いたわけなのです。英文で書かれた、これがこの経典です。こういうふうに奇跡的な因縁によって全部つながってくるわけなのです。

これで私が分かったのは、ヴェーダヌパサナー、カーヤヌパサナー、チッタヌパサナー（心随観、禅・念仏の行法）、ダンヌパサナー（法随観、パオの行法）、それぞれで涅槃の道に達すると。でも、これで書いているのは結局、アナガミ（不還果）までなのです。アナガミ、もう一回生まれて涅槃に達するという経典。

浄土は存在する

アナガミと言えば、浄土に往けばアナガミ（不退転の位）なのです。浄土で必ずや今度、成仏するということです。この行法でやってもよいし、成仏を成す行法でもよい。それで「じゃあ、浄土はあるのか？」と。私のニミッタ（丹光、禅相）でダーッと観たときに、この宇宙には観えなかったのです。それで、やあ〜っと、もう大変なショックを受けて。いやあ…そしたら、もう悩んで悩んだ挙句、観音様が出てきてね、すっと見せるわけなのです。なんと観音様がすっと赤い炎を出して、無色界の無色界ルーパ（色、変化する物質）だから、そういうふうな色で見せるわけなのです。阿弥陀様をお見せしてくださいました。

だから結局、阿弥陀の世界は「鳥」が阿弥陀なのです。だから、阿弥陀の世界に最初来るとき、見た場合には、必ず「孔雀」（くじゃく）とかね、そういうふうに観えるはずですよ。お迎えしてくれるわけ。

それで、まあ喜んじゃって。私は「これでいける」と、一般の人も。それで、この浄土論というのは、なんと大乘をつくって密教を教えてくれたのは「ナーガールジュナ」（龍樹菩薩）なんです。その龍樹菩薩という方がまたすごい方で、600年間、ナーランダ大学の学長

をやった方なのです。全経典を失ったのだけれども、この方がナーガ（龍）の国に行って、全経典を持ってきたわけなのです。そして失った経典を再現された方なのです。



忍野合宿所にて

仏舎利を巡る

お釈迦様の一つの歯はナーガの国にあるわけですね。それが、2000年前にスリランカの王妃に贈られて。私が今回、行ってきたソマバッチィ（Somawathi）の仏舎利塔なのです。そこが夜になれば、もう光がパッと光り始めて虹色が出たりします…昼でもね。不思議なことを起こすところなのです。それで、私が数年前にキャンディ（スリランカ）でお釈迦様の仏牙舎利の前に座らせてもらって30分瞑想させてもらったとき、生きている人間の前というヴァイブレーションが起きました。すごい体験を致しました。

それでその後、昨年は不思議なことに仏光山（台湾）で、また目の前で皆さんと一緒に瞑想したときにすごい力を体感しました。それで、その後でソマバッチィ。三つ目の仏牙舎利。四つ目は中国にあるというけれども、そのことは聞かされたけど、まあどんなもんかと。

ところが、なんと1954年に中国で発見されて、1年間ミャンマーで供養して、また持ってきたと。霊光寺にまつられているわけなのです。それで、去年そこに行こうとしたら行けなくなって「ビザがカナダでなければ取れない」と言われて。「それでは仕方ない」と諦めました。その霊光寺の仏牙舎利の写真がカンボジアの大僧院にありました。それを見ながら瞑想したら、グリーン屋根で映像が出てくるわけなのです。いや～天界なのか、地上界なのか、どちらなのか分からなかったけれども。

今回この靈光寺にも是非、行ってみなければ、ということで北京に行ってきたわけなのです。まあ数日、北京で疲れましたが、その靈光寺に行きましたら、その建物がありました。そこを三回くるくるくる回って、瞑想をして、頂いてきたのがこの観音様。これを日本の平安のために3体持ってきました。

文献より現場で

私たちが文献で調べている私たちの世界と比べて「天界の動きは想像を超える」ということを言いたいわけなのです。私たちの世界の文献を調べて、学者様方がまたこれを書いたら、またくるくるくるして大変な論文を書くかもしれません。ところが、現場はさっき言ったような状態です。現場で行けば早いわけなのです。明快に説明できるわけなのです。それで、デタラメ書いている？ そうじゃない。ちゃんと書くことは書いています。

ただそれをどういうふうに解析するかは、結局、大工さんが家を作るみたいに現場合わせる、そういうことが必要だという。でなければ、さっき言ったように、MITの大学者が20年前に「宇宙に生命体はない」と、ほほほほ（笑）。数式で表すのだから。

ところが、今はもう「1000億の惑星もあるし、生命体もいっぱいあるだろう」と。それがなんと、お釈迦様はもう2500年前に説明して、（現代風にすれば）『EXPLANATION of The UNIVERSE』に書いてある。アビダンマのもっと深い経典に書いてあるわけなのです。ザーッと。やっぱり、これもうナーマ・ルーパ（心と体）全部説明しています。でも、これでも経典から調べているものだから、ちょっと抜けているところがあるのです。説明しなきゃいけないところがあります。

というのは経典仏教で文献を研鑽しただけでは理解できないことがいっぱいあるはず。テラワダ（南伝）の文献でも、また大乘の文献でも、やっぱり説明する必要があるわけなのです。「これはこうです」と、いらぬもの、必要じゃないこともたくさんあります。それを文献に書かれているとおりに全部を修行しましたら、頭がおかしくなってしまうと思います。パオ・セヤドー先生より、渡されたこの文献を読んで、この中でも必要などこはたくさんありますけれども、ほとんど必要じゃないところもいっぱいあります。これもでも半分しかないわけなのです。このほかにまたたくさんあります。

ミャンマーの人の修行を終えた方は、分厚い六経典をもらいます。なぜかといったら、説明することをミャンマー語で細かく書いている。英文では出ていないし、もらえないと思う。出ないと思います。というのは、ものすごい経典を頂いた方が私をサポートしてくれたわけですよ。だから、急速な勢いで私はそれを通過したけれども、そうでなければ、とても年数のかかる修行になったと思います。そういう幸運がありました。

もう一人のマレーシアの方も私をサポートしてくれましたので、通過したのだけれども、その方は外国から来たからもらえなかったみたいでした。なぜかといったら、英語版が出ていないということだと思います。

だから結局、それをこれくらいのことをなんでどういうふうの説明するか、という役割が私にあると思うのです。もらった人が私を直接サポートしてくれたりして、どちらの方も

ちゃんと理解しておりました。だから、そんなに難しいことではないのですよ。お釈迦様の教えられることは、やることは気が遠くなるくらいたくさんあるけれども、実はみなさんができるようになっています。それが文献で見た場合に頭がおかしくなるほど大変、難解になっています。文献より理解しようとする場合は本当に分からなくなってしまう私でした。私が運のよかったのは、仏教の勉強をしてない、ただ坐禅をしていたことで、私が非学者論に負けずとかなんとかいう状態でね、なんも分からないから、さっさっさと教科をこなしたわけなのです（笑い）。

それが下手に勉強したら、できなかつたと思う。頭だけで文献を理解してしまったら、「あ、こんなことできない」と。それで思ったことは、やっぱりただ単純にね、スーッと心だけ進化させれば、必ずやいつの日か体得の大切さが分かります。特に、大乘の素晴らしいことは「空」の体験ができることなのです、禅法では。

ところが、テーラワーダではヴィパッサナー（観）を終えた後に、「空」を体験するために最後はもう気がおかしくなるくらいやらされる。それも何回も何回も。それで私を助けてくれた若い修行僧もたくさん経典を戴いているけど、私がこの素晴らしい行者に「これ観たはずでしょ？」「いや、よく観えないです」との回答でした。ナーマ・ルーパと空の密接な関連。結局それを「人空」といいます。その後が「法空」。その原点。この空の原点はどこから出るか。それが結局、宇宙の生命体に関係してくるのです。

結局、私の指南している数学者に、私が「これは無限の水晶の玉です」。ここには無限の「optic axis」と言ってね。水晶だけが持っているわけなのです。ここに無限の数の光を通過するポイントがあるわけです。ダイヤモンドには無限の「optic axis」はありません。この水晶だけが無限の軸を持っているのです。無限がこの一の水晶球におさまると、有限になる。

ここを研究したのが、1930年代の天才。非常に有名な方です。なんと12月21日が、インディアでは数学のお祭りとしてこの人を祭って、それでカナダの私の指南している数学者が今、その天才を引き継いで、90年後に初めてもっと詳しく論文を書いたわけです。お釈迦様の言う無限のことについて。

結局ね、なぜ私がこれを言うかといったら「過去の時間は無限」「未来も無限」。ただ現代のここだけが有限であると。この水晶玉のこと。この有限のこの時間帯の世界の現象では、光が大体の感覚ですが、1秒間に0.01mmくらいのスピードになってしまう。光りは1秒間に30万キロでしょ？ その世界に入ってしまうえば、0.01mmくらい。だから光が止まってしまいます。心はもっとそれより速いわけなのです。その世界が観えるから。私たちはこの波動の世界に存在しているわけです。

経済のサイクル

だから、ナーマ・ルーパ（心と体）のルーパも「rising, falling」（生、滅）で観てしまうわけですよ。そのライジングフォールというのは上がって行って、こう平行になって、ストーンと落ちる。ちょうど人間がね、生まれて死ぬ、その軌跡と一緒。経済も大体そんなもんです。経済の周期の形も同じ。1800年代の後半に生まれた方ですね。非常に有名な方ですよ。

なんていう名前だったかな。

その波形を見たときに私が驚いたのは、なんとループの消滅と同じグラフの軌跡を書くのですね。この人の名前はコンドラチエフという経済学者で、スターリンによって処刑されて殺されました。なぜかといったら結局、スターリン経済と合わないから。

この人は30代で処刑されて死んだのだけれども、この人の研究、1000年過去を調べたときには54年サイクルなのです。マヤは52年サイクル。私は52年サイクルが正しいと思う。なぜかといったら、私たちには分からない文明の過去を彼らは知って、非常に長い時空・時間帯のカレンダーを彼らは持っているから。それで54年、52年いずれにしろ、このサイクルの中で、必ずや経済が発展した夏のような加熱したときには戦争が起こりますと。冬のように経済が停滞したときには、必ずや過去1000年間、戦争が起こっています、と言っています。今、私たちがその状態なわけですよ。

今はね、ケインズのアメリカのシカゴ経済論がやっぱりおかしいのではないかと行って。このKウェーブ、Kカーブというこの学説の方が、今、非常に注目を浴びていますね。経済学者よりの、つい最近の情報によれば、アメリカはどれくらいのお金を持っているか知らないけれども、ポーカーゲームがばれて、\$30 trillionのお金がケイマンアイランド（カリビアン）にあるということだったけれども、実は空っぽで「ない」ということが分かり始めた。大変な状態にあるわけなのです。

だから、そういうことで結局、人智を超えた力に私は願って今度インドネシアへ行ってね、世界の平和のためにお祈りしようと思っているわけなのです。なぜかといったら、お釈迦様の頭の毛がね、タイで3毛か発見されたい。それをとても高名な比丘がストゥーパ（仏塔）をつくって、そこに収めたおかげで、タイが水の下に沈むのが6年間の時間帯をもらったと、言っていました。2030年には沈むだろうと。

結局、地球の温暖化は人間の温暖化じゃなく、自然界のサイクルなのですよね。それをまた色々な学説でやっているけれども、データを調べた場合には、宇宙的な動きみたいです。というふうに、人間の心というか、お釈迦様のそういうすごい力というのは、ちょっとカルマを変える力があるわけなのです。なぜかといったら心があるでしょ？ この心で、皆さん、波動がバーッと動く。これは物質をつくる力があるのです。摩訶不思議。だから、お釈迦様くらいになれば、この物質の力を自由自在につくり上げて、それだけのカルマを、ちょっと時間帯を伸ばしたりする、またいろんなことができるし。また、実は私たちは毘盧遮那仏（ビルシャナ仏）の大世界のまるで円の中に生きているわけなのです。それが絶対に分からないようにまたできているわけなのです。だから、仏教を知るといのはすごいことなのです。

私がもしアマゾンジャングルに生まれたらね、やっぱり、いろんな不可思議なことが観えると思います。アヤワスカで天界を観たりしたらね、もうそこのジャングルの世界から抜けられないと思う。また、私がロシアの共産主義に生まれたらね、それで徹底的に洗脳されてしまっただけでね。その世界から抜け切れない。また、キリスト教の世界に生まれた場合には、徹底的に「命は一つしかない、これでおしまいだ」と。

ところが、なんと西洋ではね…デカルト、カントで有名な哲学者がね、「やっぱり違うのではないか？」と。1724年、1804年に死なれた有名な方で、哲学者。「やっぱり前世はあるのではないか？」と。「一代限りじゃおかしい」と。

過去世

この「一代限り」と決めたのは、325年AD (First council of Nicaea) のコンスタンティヌス1世 から発生したことであって、その前のキリスト教は「前世もあるし、来世もある」と言ったわけなのですよ。

ただ、今の哲学者は、そのあまりにもこういう思想に追われてしまって、今の社会をリードする力がなくなったと。なぜかといったら、私が指南しているお医者さんがニミッタ（丹光・禅相）観えるのですよ。「どうしても過去を観たい」と。「じゃあ、そのままニミッタを観なさいと」。そして、パオで教えていなかった他の行法で、たったこの3カ月以内に過去世をちゃんと観た。それで、完全にキリスト教は間違っているということが、このお医者さんが分かった。では、どうしてベートーヴェンが7歳でオーケストラとか全部やれるとか、1歳半で大人みたいに話す子どももいる。もうそういう例がいっぱいあるわけなのですよ。

では、神はね、たった一つの命だったら、3歳くらいで癌になって死ぬ子をつくるとか、一生を快樂にふけるプレイボーイの社長とかね。「どうしてこういう矛盾をつくるのか」と、回答できない。だから、今これが大問題になっているわけなのですよ、「おかしい」と。

それで、アメリカのバージニア大学では実験で過去を思い出すように暗示をかけた。そうしたら、被験者が過去をパラパラパラパラッとと言うし。その文献を調べたら合っているわけなのですよね。

というふうに、私のカナダの生徒がなぜ私を信頼するかと言ったら、私が瞑想を教えたら、今はその心の動きを電磁波で見ることができるわけですよ。そして、たった3カ月の後で、今から2年前、彼女は医学関係に勤めている方ですけども、この方の生体波計図を見たら3カ月で非常に心が安定してしまっているわけなのですよ。だから、ロシアのカメラではオーラを撮れるカメラがあるわけなのですよ。瞑想でパターッと変わってしまっ。結局ロシアの方はね、宗教がなくて物質できたから、実際に何があるか、グラフかなんかで見なきゃ納得しないわけ。それが私の言うことを聞いて実験しているわけなのですよ。そしたら、そのとおり（強調）うまくなっていくから、それで信頼して、もう3年間続けてきているわけ。

それで、「このままずっと教えてくれ」と言うけど、私は「皆さんのこともあるし、それはできません」ということで、旅を続けているわけなのですよ。そういうことで、バラバラバラバラッと行ったけどどうなのでしょう？（笑）

「ま、壁をぶち破ってください」と。それから「恐れることも何もなし」と。それが全部そのヴァーチャルリアリティーで作り上げた妄想の中で発生していることだから。ただそれがパッと見えた後に、全部消えます。だから、皆さん安心して。ほんとに安心して、一日一日、ただ楽しく生きてくださいと。人をいじめないで、盗みしないで、ただ普通に生きてたら、

それで大成功。必ずや、こうして瞑想を1回でもされたら、必ずや今の世でも次の世でもすごい功德をもらいますから。

というのは、真実をみる道を歩いているわけなのですよ、大道を。大道というのはおお～きい道。でね、小さい道だったらすぐ落ちるわけなのですよ。私がヒマラヤのあのカイラス山で、こんなところですよ、こんな。一步間違えればバーッと落ちてしまう（笑）。この大道を（笑）、転んでもなんでも落ちないのだから、ここの中で。だから大安心して。偉い高僧さま方が言ったことは本当です。間違いありません。『法華経』もいいし、また浄土もいいし、色々ずっと調べたら、すべて本当のこと。いいこと書いて、そのとおりにやれば難しいことはないです。

そういうことで、私はこうして逆に皆さんに救われているような感じですね。というのは、私が持っている心の中の言いたいことを言って（笑）、その重荷を下ろすというふうな。下ろさないであの世に行ったら、やっぱりうまくいかないのではないかなと。だから結局、私にはさっきもずっと見ていたら、皆さん方が菩薩にしか見えないわけなのですよ。救ってもらっているような感じで、逆に。そういうことですね。

話が多岐にわたって、もうすごい展開でバーッと言うから、テーマも広大に渡るから、頭がおかしくなるみたいだけど、実は過去より今まで人間が人間を苦しめるようなことを、ありとあらゆる方法でやっているわけですよ。

というのは「アンオーサライズド・アンソポロジー」（認められていない人類学）と言ってね、学説から外れた人が言ったら、首になるのですよ、大学でも。哲学者でもね、私の教えているブルガリアの哲学者が「いや、先生、あなたの言うとおりで」と。「私がそれを学生の前で言ったら首になる」と。ただ「個人的には言ってもいいと、大学の方から言われています」と。

だから、そういうふうにバチカンでも1700年間「前世もないし未来世もない」と。ところがそれは今から1700年前につくられた論理であって、現実とは全く関係ないわけなのですよ。それをみんな怖がって、バチカンでも前世もあると言ったら首になるからね。

それで、なぜその前世があるとか、来世があるとか言うことを控えろというのは、「じゃあ、惨めな人が悪いことをしたのか」と。そうじゃないのですよ、たとえば腕がなくて生まれたりとか、いろんなこと。こういうことは、実は菩薩行をされているかもしれませんよ。そういう視点の違いですね。カルマにしても、そう簡単に来世も一つのカルマだけでは生まれてこないのです。

五つの力があって初めて皆さんの来世の生命体が発するのですね。そのときも時間かけてゆっくりとなるのではなく、一瞬に決まってしまう。その一つの因縁というのが五つの力の中の一つなのです。それを詳しく分析しているのが南方の方でね。この五つの中の力の一つだけを取り上げて極端に言っているものだから、皆さんが因縁となんでもそれに結び付けてしまうから、本当の姿がまた見えなくなってしまう。

私はレポーター

なぜ、私みたいに観える人と観えない人があるか。これもやっぱり宇宙的な働きで、私は旅をして皆さんに報告しているだけのことであって、いろんな理由があって、皆さんはカイラス山に行けないでしょ？ やっぱり仕事もあるし。ただそれだけのことであって、私が何も素晴らしい力を持っていると、そうじゃないわけなのですよ。それをオリンピックの選手になって「水源禅師はチャンピオンだ」と。そうではないのです。ただ、たまたま宇宙的な動きの中で私が動いているだけで、生かされているだけで。

だから結局、身体が不自由な方をいじめちゃいけませんね。この方が本当は菩薩行をしていたら大変なことですよ。魚もね、自分の全身供養とって、魚となって私たちに命を与えてくれるかもわからないしね。「そういうふうになさい」と、お釈迦様は言っていますよ。

だから、すべて私たちは有り難く助け合って、平和な世の中を目指さなきゃいけない、と思いますよ。でも、この宇宙的なエネルギーとか、国と国とのカルマとか、それに惑わされずにね、できるだけ仲良くする方向で、一人一人、怒りの心を止めてね。でも、戦争するものは止められないからね。リビアにしろ、シリアにしろ。それでも、そういう中で右左じゃなく中道で。なるべくそういうふうな視点で、中立でいくのがいいじゃないですか？

だから、お釈迦様は政治とか一切手も付けなかったしね。戦争にはまるで反対したけども。結局、人間の浅はかな考えで、そういうことが起こるわけ。今は真剣に「前世はない、来世はない」と1700年間みんなを騙しているでしょ？

私も小さいときは「来世あるのかな、過去世あるのかな」。でも、なんか不思議な体験をしているから「なんかあるだろ」と。だから、こういうことで、ただパオというところに行って、お釈迦様の行法で観ることができたから。ね？ それでこういうふうに皆さんに報告できるという、素晴らしい命をもらったわけなのですよ、奉仕できると。

私はレポーターですね。これには上もないし下もないし、皆さんも下でもないし、上でもないし、皆、大体同じ平等のところ、似たり寄ったりということ。だから、心を大きくして「空」「空性」ですね。これが大切ですね。「不達性空坐禅無益」。

結局ね、頭でクルクルクル考えないで「性空」一頭を空っぽにするような状態で、ただ坐ってくださいと。必ずやダンマ（法、真理）、ダルマが入ってきます。そういうとこで。頭がいっぱいになったら入らないのですよ。だから、その訓練をすれば、自動的に皆さん持っていますから。自分で鍵開けられます。

それから「軽因望果」というのは、深くその因果関係を観ないで、ただ来世が言う「仕事がうまくいきますように」と。これは因縁を深く観たときにはそうじゃないわけなのですよ。だから、深く観たときに、やっぱり「求道」—真理の道に入っていきます。さっき、数学のことでも説明したように、すべてつながっているわけなのですよ、政治も。これはこれ、あれはあれ、じゃないのですよ。

だから、真理は一家庭の中であっても、一学校の中であっても、一社会の中であっても、国でもどこにいても変わるわけがないわけなのですよ。だから、今、日本でいじめと言って

いるけれども、皆、騙しちゃっているわけなのですよ。それは簡単に解決できるけども、皆、誰もしたくないわけ、実は簡単なこと。

私がおの奥を言ってしまうと皆、今度おかしくなるからやんないけど。実に簡単にすぐ治ります。皆、表面上で生きてさ。そうしているから、そうなっていること。本当の心と心で生きればすぐ変わってしまうから。大人がそれを子どもに教えていないから、そういういびつなことになって、結局いつまでもその荷を負ってしまうのですね。そういうことです。

質疑応答

時代が変わればテクニックも変わる

【参加者】

達磨多羅、達磨大師の名前ですか？ その中の最初の教えの中で、不浄観をよくやりなさいと、それを勧めているのですか。

【水源師】

でもね、「不浄観」、ちょっとそれに問題があるのですよ。なぜかといったら、私は死んだ人間を実際に見たのは、たった二人だけなのです。私のお母さんと、日本で私が働いていたときに運転士が間違っって工事中に旗振りを殺しちゃったわけなのです。そのときは（覆い）被せているけど、実際は被せてないから。たった一人しか見ていない。だから、不浄観と死とは非常に密接につながっているからね。なんて言ったか、ちょっと忘れちゃった。死を観つめる瞑想があるのです。

【参加者】

死随念（観）？

【水源師】

そうそうそう。それを通過したときに、自分がいつどこで死んで、どういう状態で死ぬか、観ることができるわけなのです。そのためにやらせるわけ。そのときに仕方がないからね、映画の殺人シーンとかさ、そういうことを思い出しながら、10のそういう写真とか頭に浮かべてやって、結局、私はいついつどこで死ぬか、ちゃんと観えて。それで合格、次の教科に行くわけなのですけどね。その前にやるのが不浄観（アスバ）自分の死体が腐り果ててゆく工程。というのは、たった3日で通過。非常に簡単なもので、三十二身分で体をバラバラにして、どういう状態に観えるか、ただ報告すればよいのだけれども、ニミッタ（丹光、禅相）での行法ですれば、たった3日で通過してしまうのですよ。

ところが、『達磨多羅禅経』の方では、これは何年もやらされると思う。ニミッタがこっちの最後の方で出てくるから。光ということで。結局、その当時の達磨大師は中国語が言えたかどうか分からないし、9年間、達磨洞窟で坐っていたからね。私がそこで坐ったけども、この達磨大師の坐った座の図です。本当になんていうのか、精神が統一できてサッーッといくような感じでした。

そういうことで、結局、「不浄観」、「これが問題だ」というのは、やっぱりカンボジアとか、ああいうところでは、不浄観のビデオがあって見せるのだけど、普通の人にそれを見せたら逃げ出すと思う。「これ宗教？なんで観なきゃいけない？」って言って。本当に死体をバラバラにして見せます。私の場合は、一応それを見ているから見ることはできるけれども。普通の人が見ないでそれをやられたら、大変だと思う。それが今度、全部肉が溶けて骨にな

って、骨が溶けてなんか…ということ想像するのでしょ？今は映像の世界だから作れるわけなのですよ、想像しなくても、強烈に入ってくればね。逆に心で障害を起こしてしまうと思う。

だから、ニミッタの使い方も、私はパオで勉強したときに、この方法しかないのかと思っただけでも、今ずっと見たら、いろんな方法に応用できるということが分かりました。だから、そうきちつきちと考えなくても。一つの禅法でもいいし、自分に一番合った状態でやっていけば、必ずや心が進化していけばいいだけのことだから、このポイントが一番大事なことです。それでインタビューで「あ、ここはこれやればいんじゃないか」ということが、私の体験からね、参考になってもらえるかもしれませんね。そういうことです。

だから、いろんな先生方が来て、そういうところでインタビューして、そういうふうな回答をもらえたら、やっぱりいいことじゃないかなと思います。私一人では限界がありますからね。だから、たくさん先生方が来て、たくさんのお話をして、いろんなことを残して行って、仏教のために尽くしているから、私は本当に日本の方は幸せだと思います。

【参加者】

達磨大師がね、不浄観を書いているというのはちょっと驚いたのですけれども。というのはミャンマーの先生たちが来てお話しすると、非常に不浄観の話をよく勧めるのです。それでね、我々の感覚から言うと、不浄観はピンと来ないって言うか、なんか体が腐っていくのを観てね…なんかねあの…ちょっとギャップがあるのです。

【水源師】

そうなのですよ。そうなのです。そうそうギャップでね、逆にね、ストップがかかるという事は、私は通過できるけれども、普通の人にはこれ無理じゃないかと。逆に障害を起こしてしまうという懸念があったわけなのですよ。

【参加者】

だからね、ニミッタとかね、禅定に入ってそういう状態になっていけば、それはそれで別に問題はないのだろうけども。

【水源師】

そうそうそう。その前にそればかりやらされたらね…「死だ、滅亡だ」、そういうネガティブのことばかり入れてしまっただけ。心が進化しないと思います。だから、ある経典ではシャーリプトラ（舍利弗）の弟子がね、「なかなか進化しない」と。それをお釈迦様に言ったら「あ、この人には美しい花を見せなさい」と。「美しい花が枯れていくその状態を見せたら、進化するはずだから」と言ったら、すっとなんかうまくいったと。というのは、過去5代に続いて宝石工で、宝石をつくる、そういう美しい世界にいたからね。拒絶してしまうわけなのです。現代の方がそれに当てはまるような気がします。ファッションだとか、綺麗な車とかね、特に現代の人は。

だから、やっぱり行法もね、お釈迦様はこれだと決めていないけれども、その当時は不浄観が一番よく心が発達したからやったけど、それをずっと伝承してきてね、カンボジアでは見たけれども、まずそういうビデオを見せたら「これは、日本とか西洋では難しいだろう」と、そう思いました。そのとおりに伝承するのはいいけど。

時代が変われば、やっぱりテクニックも少し変わってね。こういう数学者もライジングフォールの近くまで見ていますから、数学的に解析して。

ということは結局、私が観たライジングフォール、彼が分かるわけなのですよ。ところが、ミャンマーのパオの行を修業した人でさえ観えないわけ、そこが。

彼、数学的にこういうことを書く人だから、分かるわけなのですよ。空の世界も、実際は観ていないけど、理解ができるわけなのです。ま、そういうことなのですから。でも、実際に観てみたいと言っていました、この方がニミッタを実際に観た驚きは大変、嬉しそうにしていました。

自分で検証できる

【参加者】

それから、コンスタンティヌス皇帝 (272 - 337) ですね。キリスト教の方で過去世はないというふうになったというのは、多分その頃はキリスト教をローマの国教にしたのですね、コンスタンティヌス皇帝というのが。それでそのときに会議を開いて、いろんな教義があるのだけど、まとめようということで何かやったのですね。トルコのニケーヤの首脳会議。それと関係ある？そのときに「これが正しい教義だ」ということで、異端と正統を分けちゃったというのか。

【水源師】

そうです。それで結局、1500年前イスラミックが起こったでしょ？ イスラムも全く過去もないし未来もないし神が創られた、そうなっているから狂信的になってしまっているわけです。

だから、アレキサンドリアのヒュパティアという数学者がおるわけなのです。この人は420年代辺りで、大数学者でしかも天文学者そして哲学者というのは大変なことで、女性でね。この人は一神教じゃないのですよ。いろんな宗教を認めて、信じて。それでこの人はキリスト教の人のために殺されたわけです。暴行されて裸にされて、肉も全部削られて。この生徒が、その後すぐ逃げてギリシャに行って、ギリシャで数学が大発展したわけなのです。この人は地球が丸いし周っているということを知っていた。今から400年前、ガリレオ・ガリレイが殺されそうになったでしょ？ その1000年前に彼女はちゃんと、プトレマイオスの理論で（地球が宇宙の中心で他の天体はその周りをクルクル周り）変な宇宙観じゃなく、全部検証して分かっているわけなのです。

だから、時代が経てば進化するどころか、逆にね、丸い地球が平らな地球になって、「丸い」と言ったら殺されそうになるわけなのですよ。だから結局、お釈迦様がね、「私の言っ

ていることが本当かどうか、あなたたちが検証してくれ」と。「ただ信じて拝むだけは、それはやめてください」と言っているわけ。「神格化」。でも、やっぱり神頼みとかさ、「助けてください」と、私もよく言ったけど（笑い）。やっぱり宝くじに当たるみたいに、そういう気持ちになりますよね。だから、それはそれでよいのです。やっぱり、いろんな菩薩様だとかね、そういう偉い阿弥陀様とか、薬師如来様とか、宇宙的に見て、いつでも加護していますから。

なぜかといったら、第一禅定に入ったとき、バアァッ！と…全宇宙の仏がブワァッと来て見せてくれたからね。「や…たった私みたいなこのゴミみたいな人間に、全宇宙の仏が現れてバーッと見せてくれるのか」と。私の方がびっくりしましたよ。

ということは「こういう報告をしてください」と。私だけではなく皆さんにもそういうふうに、もう一瞬一瞬加護されていますから、ということになるのです。だから、下手な思想とかね、そういうことに惑わされずに、自分で真実一路。自分の力で真面目に行ったら必ずやいいところに到達します。これはね、お金でも買えません。名誉でも買えません。政治的な力でも買えません。どんな大統領でも買えません。ただあなた一人一人が、できることなのです。だから、私たちは平等に生まれているわけ。どんな天才でもできないわけなのです。

一人一人の道だけでしか発見できない。これはまあ絶妙な大世界ですね。つまり、カンニングなしなのです。経典読んで丸暗記してもダメなのです。カンニングしてもダメなのです。虎の巻見てもダメなのです。

【参加者】

最後にお話していたコンドラチエフです。経済学者。最近あの人、わりと評価されるようになってきているというか。でも、今の人がもう一回見直しているのは「60年周期」っていうふうにはしていますけども。

【水源師】

彼の説は54年周期。というのは中国の宋代からの文献を統計学的に調べた結果がそうでした。私が最も驚いたのは、ちょうど赤ちゃんが成長して青年になって、それから肉体が朽ちてずっとって、ポーンと落ちる（死ぬ）でしょ？それがなんとライジングフォールのルーパ（色、変化する物質）の軌跡と一緒になんです、人間の命が。それで動物もまた同じような。経済のパターンのグラフを見たら、「あら、なんと似ているなあ」ということで、びっくりして。調べてみたら、参考になる文献だなあと。そう思っています。

だから結局、経済学も仏教もすべてつながっているわけなのですよ。「私は、経済は知らない。ただお経だけ教えればいい」という…それでは皆さんのためには、役立たないのではないかと思います。文献的にもね…達磨大師が広東に入ったのが、524年説と526年説と、まあ論争するわけなのです。そういう小さいことで。ま、それはそれで素晴らしいのだけれども、一般の家庭のこと、いじめとかね。経済的な苦しみの中で皆さんがどうすればいい

のかというのは、宗教的な方が回答していかなきゃいけない問題ではないのかなと。これからの本当の民衆を助ける精神界でなければ、やっぱり離れていくのではないかと思います。

それは、こういう文献があるからこそ、私も「なるほど、なるほど。ここはこうで…」と。素晴らしいですよ？ 私はとっても無学だから(笑)。だから、否定するわけじゃないけどね。ある程度、宗教界に立つ人は民衆の苦しみを理解するようにして、地につく、皆一緒になって行くべきじゃないかなと。

カナダの浦島太郎

【参加者】

先ほど、未来と過去は無限で、今現在は有限とありましたが。それは時間で？

【水源師】

空間が 10 nanometer (10 のマイナス 9 乗)、時間が 32 attosecond (10 のマイナス 18 乗)、光の時間空間体で観ると、このようです。だから、もうある数学者が言うには「この一瞬の中に 100 兆、200 兆の宇宙が重なっている」と言っていました。量子力学的に計算したら、そうなるらしいです。

やっぱりお釈迦様の言っていることは合っているわけなのですよ。だから一瞬のブレでね、あなたが消えてしまう。本当におとぎの国。そういう事態が過去の例証でたくさんあるし、私がカナダで聞いたら、ある人の叔父さんが 5 年間、森に入って帰ってこなかった。5 年間。本人はたった 4 時間しか経っていない感覚。たった 4 時間で行って帰ってくる。森に入っていったらね、綺麗な人が出てきて、非常に素晴らしいご馳走をしてくれるのですって。それで、ご馳走の綺麗な蓋を開けてみたら、なんとウジ虫みたいなものがでて、それでびっくりして帰ってきた。そのたった 4 時間の時間帯が 5 年間だった。「私の叔父さんだから嘘つかない」と。というふうに、実は摩訶不思議な世の中なのですよ。それがいないないない尽くしで、「これはない、あれはない」と。

だから、人類学者も新しい発見をしたら、定説から外れているから「あなたはクビ」と。というのは、なんと 2 億 8000 年前の人骨が出てきたわけなのですよ、ある鉱山で。私は写真を見たけど、マラカイトという宝石があるわけなのですけども、人骨がマラカイトの粒子になってしまっただけ。それをマラカイト人間とか言うけども、それがなんと 2 億 8000 年前。私が学んだときは 50 万年前に人類が誕生。今は 200 万年？ 300 万年？

【参加者】

300 万年ですね。

【水源師】

ところが、遺伝子学的には今その学説が崩壊して、700 万年前。変わるのですよ（笑）。これを発表したアメリカのアリゾナ大学の方かな？ クビになって、言われなくて（笑）。結局、突き詰めるところは、さっき言ったように、自分でしか発見できないようになっていくわけなのです。一つ一つの真実を、この肉体を通して。だから肉体は大切なのですよ。

無駄に自殺とかね、他人をいじめるとか、これはご法度。だから、そういうふうには人間の命を軽く考えているから、いじめいじめ…。自分の給料が無事なら「何事もない」と。知らぬ、存ぜぬ。それで退職して、年金をもらおうと。そういうふうにはならない、私のところでは。私もそういうところに働いたけども、何もしなければ合格。何かすればクビになる。

だから、誰も何もしない（笑）という社会なわけなのです。松竹映画でね…『命』という名作があったわけなのです。『生きる』かな？

【参加者】

黒澤明ですね。

【水源師】

あ、そうそうそう。あれ、市役所でしょ？ そのとおりなのです、カナダでも。しなければいい。すればダメなのです。だから、憤って酒を飲んだときには「ああ～！」というけれども、後でパターッと何もしない役所勤め。これが人間の弱さ。これが全部こうなっている、しきたり、体制。だから結局、そういう体制で、アルカイダみたいにとか、テロリストになれというわけではないけれども、それはそれ。自分はその中で切磋琢磨して磨いていけばいいということなのです。そういう罫にはまらないでね。あの素晴らしい名作。やっぱり今でも時代は変わっても、綿々と今のイジメのこの社会がそうなのです。だから「簡単に直せます」と、私は言っているわけ、実は。ただそれをやらなければ、若いこの生命が非常にいびつになって、次の世代のときに非常に苦勞する国になりますよ、ということ。だから、その方向に少しずつ文部省も働いているし。

仏教のある有り難さ、というのはいいですよ。アメリカなんかバンバン（銃声）ですからね。バンバンバンバンって、頭にきたら殺し合って。そんなもんじゃない。あとは何がありますか？

日夜、阿弥陀

【参加者】

そこに貼ってある、印光大師、これはどういう方で？

【水源師】

「上の人は下の人と仲良くして、人のために苦勞しなさい」と。そして「日夜、阿彌陀を称えれば、必ずや西方浄土に生まれることが決定します」と言うことを彼は書いています。こういうふうになれば必ずや、ということを書いたわけなのですよ。それで、これを一つ一つ皆さんに印刷して、説明しなきゃいけないのだけれども。

大体、内容は、さっき言ったようにね、人いじめとか、カネに目がくらむとか、そういうことをやめて、人のために苦勞しなさいと。日夜、一心に念仏。一境性（一つの対象に集中する）ですね。一境性一念。サティ（念）の心が発生するから、それは三十四刹那心になって、死ぬときに阿彌陀、阿彌陀と七回称えれば、必ずや願う浄土に生まれますね。死ぬときの大体5秒、10秒前が（行き先を）決定してしまう、そこで七回は5～10秒になるはずですよ。そのときには非常に気持ちがよくなって、映像がパパパッと出てくるときに、やっぱりこういうことをずっとやっていたら、最後は「阿彌陀」だから、当然、浄土に生まれますよ。当然。そのときに、そういうことを知らない方は、いろいろなドアが開くからね。パーッと、一瞬にして。だから、悪いことして人殺しばかりしたら、そういう人がバーッ！と来るからね。ブーンと行っちゃって、真っ暗闇に入って行って、いつの世に出てくるか。本当にそうなのですよ。映画みたいな。本当に。

だから、私がそういう自分の生死をずっと観ているから分かるわけなのです。ところが、ほとんどのお坊さんが観えないから、「お前はなぜ観えるのか。嘘つきだろ」と。それで經典に走ってしまう。なぜかといったら、自分の給料がもらえないし、人に説法もできないし困るという。そういうことがほとんど。

いたずら坊主

【水源師】

お釈迦様の時代にね、自分の信者が偉いお坊さんのところに行こうとするから、一生懸命止めるわけなのです。なぜ止めるかと言ったら、ダーナ（お布施）が来なくなるのではないかと。そういうこともあるわけなのです。それとか、アラハト（阿羅漢）の真似して、「自分はアラハトだ」と言う。人が来たらね、突然消えて。その人が帰るときに路上で待っているわけなのです。「あら、あの方はさっき行って消えて、どうして今ここに出てきたのだろう？」と。「そういうことができるのはアラハトじゃないか？」と。ところが、なんと穴を掘ってそこを抜け出て（笑）。そして、それがばれて、糞溜めに足を突っ込んで落ちたわけなのです。それから糞坊主ということになったのですよ（笑）。これ本当の話だから。それが南伝仏教に書いてある。

だから、そういうふういろんなことを書いていますよ、自分の悪いところも。他には、若い修行僧が修行しているときに、下駄を履いて、バババババババババと音を出して邪魔するわけなのですよ。六部なんとかという名前の先輩の集団修行僧たちなんですよ。そうい

うことをちゃんと経典に書いてあるわけ。イタズラするとかね。だから、教団でもね、全部、聖者じゃないわけなのです。いろんな学校みたいないじめとかいっぱいあるとか。「こういうことしちゃダメですよ」と。というのは、嘘つかないで本当に書かれていることが素晴らしいですね、遊女を使ってお坊さんを誘惑して止めさせるとかね。

いろんなことをちゃんと書いてあるわけ。いろんな経典を短くした…なんて言ったかな…『ダンマパダ』（『法句経』）に書いてある。大乘仏教はあまりそういうふうなことを書きませんね、聖者の位で高いことにして。南伝はあからさまにいっぱい書いてある。そういうことで、やっぱり「そういうことしちゃいけないよ」と。それで、正法がすべて正法だけでも、こういうふうにはパオの行法が残っている、お釈迦様の直伝の。だからミャンマーの方も尊敬しなきゃいけないし、スリランカの方も経典を読んで書いてくれて、私が読めると。尊敬しなきゃいけないしね。

だから、わたしはもう壁という、そういう国境がなく、ただただ皆さんにいかにして奉仕できるかということだけ。人生高々100年。60年、80年。短いですよ。夢のごとし。

過去世を観ると壁が倒れる

【参加者】

さっきの達磨大師のあれ（『達磨多羅禅経』）は日本の本なのですか。

【水源師】

いや、これは中国の文献で。昔の書き方なのです。こういう経典は日本では手に入らないかも。最後の方で書いているのは、やっぱり十二因縁。これを読んでも無理があります。これはね、行法で全部ナーマ・ルーパ（心と体）観て、最後のヴィパッサナー（観）の教科になるから。これを全部観ることができるのですよ。自分の生死から何から。やっぱりそこまで皆さんに行法で観せることができれば、私も幸いだけでも、テーラワーダ（南伝）の手法では行ける人がほとんどいないから、そこまで到達できる人が。

それで私が驚いたのは、過去世を観たいという人がいて、その人はニミッタ（丹光、禅相）が出るから。直接、過去世を観せたら観えるわけなのです。そういうことを発見して。時間をかければ、3年かければ、他の手法でも観えるのです。これは日本には伝わっていないけど。もう一つの手法もあります。私が大体四つの手法で過去世を観る方法を体験しています。だから正法はパオでもいいけども、今、現代では働かなきゃいけないしね。私は在家から行ったから皆さんのこともよく分かるのですよ。それで結局、カナダでその手法を使ったら、やっぱり本当に観ています。私が話をダーッと聞いたら「あ、観ている」。すぐ分かりました。この方も今までの哲学的なことが全部、間違いだということが分かって、開放されたわけなのです。皆さんも仏教をしてそういうことに全然壁もないけれども、西洋では大変なことな

のですよ。1700年もブレインウォッシュ（洗脳）されているからね。そこから壁を破るとい
うのは大変なことなのですよ。

それで、私の知っている司教がね、六つのときからバチカンの教育を受けて、一日6カ国
語話さなきゃいけないって。1教科ごとに言葉を変えて。そういうことでやっても、疑問を
感じて、枢機卿と喧嘩して辞めたのだけでも。やっぱりそういうふうに徹底的に教えられた
ものだから、その鎧みたいな壁を取るのが大変だった。「今でも苦しい」と。「バチカンの
方が間違っているということが分かっても、それを完全に取るということができない」と。

彼は私より歳上だけでも、過去世を観たらパーッと壁が倒れますね。すべて間違っている
と。それで、司教のこの方ではなく、他の人だけでも、たった一人でも西洋で過去世を観
せることができたという大成果が今回、私にとっては非常なご褒美でしたね。そういうこと
ですけれども。

火の神

【参加者】

今年の12月21日ですか。それがマヤのカレンダーで一つの節目になっている？

【水源師】

はい、節目で、新しく5125年のサイクルが始まる。

【参加者】

5125年…それとそのインドの数学者ですか。それも12月21日にお祭りをやる？

【水源師】

やっているのですね。その人は若くして死んだのですよね。ケンブリッジ大学まで留学し
て。なんと天才的なのですよ。

【参加者】

聞いたことある。ラマヌジャン（1887 - 1920）？

【水源師】

この人は 1930 年代に死なれた。彼がある程度まで無限大の数学をやったのだけれども、私の生徒が論文に正式に書いたわけ。彼よりもっと深く。それで結局、ペンシルバニアの数学科の教授に招待されて、今年から行くことになっている。

【参加者】

その日にインドネシアで護摩をする。冬至の日ですよ。

【水源師】

はい。なぜかといったら、奇跡的に私は知らなかったけれども、私はティティカカ湖に行ったでしょ。あそこでちゃんと瞑想して、不思議な現象をたくさん受けましたけども。そのポイントと、このインドネシアのボロブドゥールのポイントが、地球のチャクラのエナジーポイントになっているわけなのですよ。

それで、ちょうどボロブドゥールが密教の最高峰の寺院ということが分かって。密教であれば、やっぱり護摩焚きね。アグニ、火の神。つまり、西洋のイスラム教にしる、キリスト教にしる、ユダヤ教にしる、すべて一つの神で、一番大切なのはこの火の神。ブッシュファイアー。モーゼ、シナイ山のモーゼ。一緒なのです、これは。それで、そのことを高野山の火の神はどういう神であるか、私が説明したわけなのです。そしたら「その神だけがそういう姿をしています」と。ちゃんと分かるわけなのです。それで、お釈迦様が結婚するときに奥さんと手をつないで火の上を渡ったのです。結局、火の神のブレッシング、祝福を受けた。それで、この地上にはインドのムンバイにその火の神の寺院がたった一つだけ残っているわけなのです。

【参加者】

ボンベイ、昔の。

【水源師】

そこは 16 の火を集めて、(大きな) 火を燃やしているわけ、絶えず。大変なことなのです、火を消さないということは。

【参加者】

昔のゾロアスター教の名残…？

【水源師】

というよりは、結局イスラムが出たときに弾圧されて。

【参加者】

逃げてきた？

【水源師】

それで、ボンベイの王様が「美味しい砂糖は非常に役立つから、ここにいなさい」ということで、守ってあげたわけなのですね、土地を与えて。そこで延々と残って。それで、ある人がゾロアスター教の砂漠を歩いていたときに、ドアが開いていたから、普通は入れないのだけど、スーッと行ったら、「（火が）生きた生命体と一緒にだ」と言っていましたね。パーッと上がって。それがやっぱり護摩焚きでは火をバーッと上げるのですね。それが私が見たアグニ。火の神の力だと思いますね。というふうに、ティティカカ湖のつながり。北米のインディアンのそれも、どうも火の神のアグニに似て、その現象が起きて。今この高野山で弘法大師様が中国で法難が起きて逃げてきた密教ね。それと時空を超えてピタッピタッピタッと合っているわけなのですね。だから、私一人でできたわけではないですよ。

ちょうどそれを終わった直後、3日間、1200年初めて日本で弘法大師さんが開いた1200年間閉まったお寺がある。それが開いて私が灌頂を受けるわけなのですね。そしてすぐに日本から出て行って、その準備をして、インドネシアに渡って、護摩焚きをやる。まあ絶妙ですよ。想像を絶する…大ロマンの世界。自分で「こうだ、ああだ」と。文献調べて言っているのではなく、見たらそうなっているわけなのですよ、そういうふうに。丁度、終えた直後に灌頂式が3日間、京都と大阪の間でやるのですよね。1200年ぶりに。

【参加者】

神護寺ですね。京都の神護寺というところで、1200年前に、弘法大師が護摩焚きをやって、灌頂をやって、そのときに最澄さんという人も来て灌頂を受けたという。

【水源師】

そうそうそう。ま、大変な名誉ですけども、外国に住んでいるから。パパッと護摩焚き終わって、すぐ行くのだから。

十無益

というふうに、「さっき言った実際の自分のものを持っていないで、外だけ飾っても無益だ」と言うのだけでも、弘法大師様はものを持ってきているから「外を飾っても有益である」というふうなことですよね。やっぱり、空っぽでいくら着飾っても意味ないけども、この場合は弘法大師様が本当のものを持ってきているから、「有意義である」と。十無益だけれど、逆に見たら十有益ということも、この反対をやればなるわけなのです。だから、対になっているわけなのです。十無益の逆。ここを指針にしてやれば、間違いないと思います。これは私が書いたものではなく、私が写したものを私の字で書いた秘伝の一つなのですよ、禅法の。これを有益と見るか、無益と見るか、それはあなたたちが生きていく間で、これを指針にしていけば大丈夫です。

【参加者】

これは、この10個のものが、普通に読むと無益であると。

【水源師】

はい、はい、はい、はい。その反対をやれば、有益になります。

【参加者】

ああ、そうなのですか。

【水源師】

心をよく観れば、ヴィパッサナー（観）をやれば、お経がよく観えますよと。「心をよく観ないで勉強した場合には、無益だ」と。結局、般若心経でも「無無無」となっているでしょ（笑）。そういう…。その方がピンとくるからそう書いているかもしれない。

ゆったり

【参加者】

空を体験したら、すぐにニッバーナ（涅槃）に行けるものなのですか。

【水源師】

いや、人空、法空、空空とありますからね。三つの段階。

【参加者】

空が？

【水源師】

はい、そうです。で、4段階目は神の世界でしか観えない、となっているわけ。人間界では観えないと。これがユダヤ教の核心であり、仏教では三つまで観える、観せると。

それでユダヤ教の人が驚いてね。もう一生懸命、禅をやっている。「いや～。これは奥義の奥義を先生は話している」と。ピタッピタッと来るわけなのです。それで、ユダヤ教の経典にも、やっぱり前世もあるし、そういうことも書いています。だから、すべてつながっているわけなのです、実は。

私は仏教の経典を使ってカナダで教えられないし、言ったってカナダの人にはチンプンカンプンでしょ？だから、体験して現代語で行った場合には経典とピタピタピタッと合っていくわけなのです。彼らの経典ですね。やっぱり真実はどこでも変わらない。1+1は幼稚園であっても大学であっても、国が変わっても変わらない。そのことなのです。

だから心を紐解いてゆく。締めないでゆったりして、ま、楽しく。「楽しさ」。人生をいかにして楽しい方向に向けていくか。それが坐禅と結びつけば最高ですね。それができなければ、お茶でもいいし、お花でもいいし。じゃなければ、ある程度スポーツを観て、心を緩めるのもいいし。何も硬く、硬く、じゃなくてね。

でも、遊び呆けても、これもまた最後の文の「満腹無識驕慢無益」とね。一生を騒ぎ立てても結局ね…。漫才言っている方には失礼だけど、それは喜ばせるのはいいのだけど、一生それだけでも問題ですという。

【参加者】

その上の「一生乖角處衆無益」、これはどういう？

【水源師】

これはやっぱり、私は30年間、森に住んで、聖者のことをしてね、そういうふうにとどまってもそれは無益であるという。ということは、私が全部、悟りを開いて、ここから出ないし、人のところには行かないで、ただ聖者みたいに（隠遁して）暮らすということは無益であると。やっぱり人のために、街に出て生きる。ここにも書いてあります。「人のために苦勞しなさい」と。「人に重いものがあつたら自分で背負って歩きなさい」と。「食べられなかったら食事を与えなさい」と、こういうことを書いています。

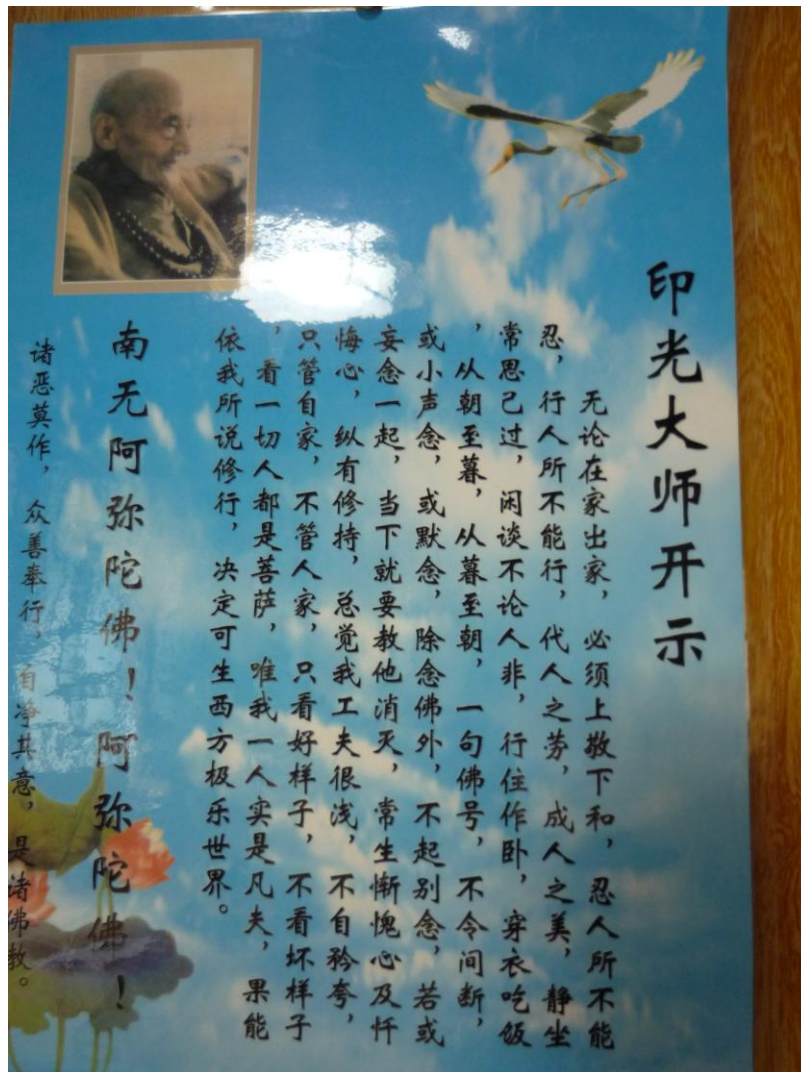
「人のために生きなさい」と。それが基本で「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」。一心にやるということは、イーケガター（一境性）、マハーサティ（大念）を呼び起こして、三十四善心が発生して、死ぬときには必ずそのとおりになります。もしこれをやれば。私の行法でも観た場合でも間違いないです。

【参加者】

象牙の塔ということですね。白い巨塔とか、そういう感じですね。

【水源師】

はい、「人のために尽くしなさい」ということです。



『印光大師開示』

水源禪師法話集 11

(2012年9月14日 忍野合宿)

2014年9月19日 発行

編集兼発行 一乗会